

# 令和8年度 社会学類編入学試験

## 【経済学】

### 専門科目問題冊子

#### (注意事項)

- ・問題冊子1部、解答用紙2枚が配られているか、確認してください。
- ・これは、経済学主専攻の試験問題です。あらかじめ届け出ている主専攻と合致しているか、確認してください。
- ・すべての解答用紙の所定欄に、学群、学類、氏名、受験番号を記入してください。これらが正しく記入されていない答案は、採点できないことがあります。
- ・経済学の専門科目の問題冊子は、表紙を除いて2ページあり、問題[A]と問題[B]によって構成されています。問題[A]と問題[B]のすべての設問に解答してください。
- ・問題[A]と問題[B]のそれぞれについて解答用紙を1枚使用してください。解答の文頭には、設問番号を必ず記入してください。問題[A][問1]、問題[B]のように記入してください。設問番号が明記されていない場合、採点されないことがあります。
- ・解答欄が足りない場合には、解答用紙の裏面を利用してください。ただし、その場合には、解答用紙の表の最終行に「裏面に続く」旨記入してください。

問題 [A]

次の問1と問2に答えなさい。

[問1] 需要関数が  $Q = 24 - P$ , 供給関数が  $Q = \frac{P}{2}$  で与えられている, ある財の市場について考える。 $Q$  は数量,  $P$  は価格を表す。

$Q$  単位目の生産によって, 社会的に限界費用を  $Q$  だけ増加させる負の外部性が発生するとしよう。

- (1) 最適生産量を求めなさい。
- (2) 最適生産量における総余剰の大きさを求めなさい。
- (3) 最適生産量の総余剰の達成を誘導する政策例を説明しなさい。

[問2] ある国のマクロ経済の長期モデルについて考える。

総生産関数は  $Y = A\sqrt{K}\sqrt{L}$  である。この国の統計データによると  $A = 20, K = 16, L = 25$  であった。

消費関数と投資関数はそれぞれ,  $C = 0.5(Y - T) + 20, I = 200 - 1000r$  であり,  $G = 40, T = 40, NX = 0$  であった。 $r$  は実質利子率,  $G$  は政府購入,  $T$  は租税,  $NX$  は純輸出を表す。

- (1) 長期均衡におけるこの国の総生産を求めなさい。
- (2) 均衡実質利子率を求めなさい。
- (3) 長期均衡におけるこの国の総貯蓄  $S = Y - C - G$  の値を求めなさい。ここで所得収支は考慮しなくてよい。

問題 [B]

以下に引用した 2025 年のノーベル経済学賞に関する記事について、すべての問に解答せよ。

(この部分は、著作権の都合により公開できません)

[問 1] 18 世紀後半のイギリスにはじまる「産業革命」に関して、その革命性・突発性を強調する立場と、非革命性・連続性を強調する立場が存在する。どちらの方がより説得的と考えるか、についてその論拠を説明しつつ自分の意見を述べよ。

[問 2] 「創造的破壊」に関連して、以下の問いに解答せよ。

(1) J.シュンペーターは新結合による創造的破壊を通じたイノベーション（均衡を破壊する「ブレイクスルー・イノベーション」）を経済発展の根本に据えた議論を行った。これに対して近年、イノベーションの捉え方をめぐる議論は多様化（再度、均衡を創造する「インクリメンタル・イノベーション」など）してきているが、こうしたイノベーションの捉え方の展開に関して説明せよ。

(2) (1)を踏まえつつ、高度経済成長期以降（主に 1955 年以降）から、「失われた〇年」（90 年代以降の失われた 10～30 年）までの日本経済の評価について議論せよ。

出典：日本経済新聞、「ノーベル経済学賞にモキイア氏ら 3 氏 イノベーション主導の成長解明」2025 年 10 月 13 日。